

活用ナビ

①【ねらい】元との戦いの様子と幕府の政治に対する影響を考える。

② ● 資料名は何ですか。

- どの戦いですか。左側は何人ですか。攻めてきたのはどこですか。
- 何のために攻めてきたのでしょうか。
※日本を従わせようとしたことをおさえる。

③ ● 絵を読み取ろう。左側の元軍と右側の御家人たちの軍で気づいたこと、思ったことを書こう。

※気づきが少ない子には「何が見えるか」「何をしているか」という観点で書かせる。

- どのような戦いだったといえるでしょうか。
※御家人たちが苦しめられたことを理解させる。

④ ● どのようにして元軍を退けたのでしょうか。

※資料や本文から読み取らせる。

⑤ ● 戦いのあと、御家人はどのようになったのでしょうか。

- その結果、幕府と御家人との関係はどのようになったのでしょうか。
※幕府の力が衰える結果になっていったことをおさえる

⑥ ● 竹崎季長は「蒙古襲来絵詞」で描かせたかったことは何でしょうか。

- ※教科書のP112のコラムを読ませてから考えさせる。
- ※歴史絵画には意図があって描かれていることをとらえさせたい。

2-3 武士の政治が始まる 元との戦い

P112~P113

名前

6年 組 番

①【ねらい】元との戦いの様子と幕府の政治に対する影響を考える。

②【基本】教科書の図を見て確認しよう。

・ 絵画資料名

蒙古襲来絵詞

・ どの戦いか。

元

・ 左側は（ モンゴル ）人で、2度にわたって九州北部をせめてきた。

③【ポイント】左側と右側の戦いの様子を比べて、気づいたことや思ったことを書こう。

・ 左側

- ・ 弓矢を使っている。
- ・ てつほうという新兵器を使っている。
- ・ 攻めているけど、逃げている人も
- いる。
- ・ 集団で戦っている。

・ 右側

- ・ 武士がよろいを着て戦っている。
- ・ 馬から血が出ていて激しい戦い
- だった。
- ・ ほかの武士がいないのはなぜか。

④⑤のようにして元軍を退けたのだろうか。 ⑤幕府と御家人との関係はどうなったか。

- ・ 苦戦したけど、激しく戦い、暴風雨で
- 元軍が損害を受けて引き上げた。

- ・ 御家人は多くの費用を使ったけど、
- ほうびの土地をもらうことができなかつ
- た。

- ・ 関係がくずれて、幕府の力がおとろえ
- ていった。

⑥竹崎季長は、「蒙古襲来絵詞」で何をえがかせたかったのだろうか。

- ・ 戦いの様子だけではなく、土地をもらうまでの事情を表したかった。
- ・ 自分のでがらも表したかったのだと思う。

資料の読解

2度にわたる元寇は、鎌倉幕府にとって厳しい戦いだった。当時のモンゴル帝国は巨大な勢力を誇っており、その大帝国が日本を従えようとしたからである。この蒙古襲来絵詞は、竹崎季長が元寇における自分たちの戦いぶりを描かせたとされている。絵巻物であり、戦いの様子だけではなく、戦いのために移動する様子や恩賞を求める様子も描かれており、教科書に掲載されているのはその一部である。

この絵では、元軍が使用した「てつほう」が描かれている。また、激しく弓矢が飛び交い（元軍に向けても弓矢が飛んできている）、竹崎季長が乗っている馬からは血が流れている。この絵から、激しい戦いの様子が伝わってくる。教材研究では、この絵の部分だけではなく、蒙古襲来絵詞の全体を見ておきたい。

読解の方法

- (1) 資料名等の基本内容を確認したあと、何のために攻めてきたのか考えさせる。当時のモンゴルが大帝国であることをおさえたうえで、絵の読み取りをさせる。
- (2) 絵の読み取りでは、気づいたこと、思ったことをワークシートに書かせる。気づきが少ない子どもには、「何が見えるか」「何をしているか」という補助発問をして、まずは「爆弾のようなものが見える」「モンゴル人が矢を放っている」といったことを書かせたい。そのうえで、「どのような戦いだったといえるか」と問い、戦いの様子についてまとめる。
- (3) 元寇の結果と御家人と幕府の関係について確認をした後、113ページの蒙古襲来絵詞に関わるコラムに触れる。竹崎季長がどのような意図でこの絵を描かせたか考えることで、子どもたちの絵画資料に対する関心は高まるであろう。